

## 外務省招へい韓国大学生訪日団が赤門会日本語学校を訪問しました

### 外務省・日韓交流文化基金による「JENESYS2019 対日理解促進交流プログラム」 同事業において赤門会日本語学校が選定され、韓国の大学生 30 名が当校を訪問！

2019年9月24日（火）、日本国外務省の招へいによる韓国大学生訪日団 33 名が、赤門会日本語学校を訪問しました。本事業は、日本国外務省及び大韓民国外交部が主催し、公益財団法人日韓文化交流基金が実施する「日韓学術文化青少年交流事業」の一環として行われているもので、今回の行程は9月23日（月）から10月2日（水）までの10日間にわたり、東京と鹿児島を訪問するスケジュールとなっておりますが、同行程において公的機関を除く最初の訪問地として赤門会日本語学校が選定されたものです。

一行は当校に到着後、まず、日韓の架け橋の象徴である、故李秀賢（イ・スンヒョン）氏を偲び、校舎に併設された李秀賢記念公園のレリーフに献花を行いました。その後、校舎内へ移動し、授業風景などを見学するとともに、LSHアジア奨学会事務局長 有我 明則氏、当校理事長 新井時賛により、日韓交流の意義と重要性などをテーマとした講演が行われました。

赤門会日本語学校は、今後も様々な国際交流事業への協力を積極的に行うとともに、日本語教育を通じた日本と各国との架け橋となる人材の育成に努めてまいります。

#### 【李秀賢（イ・スンヒョン）氏】

2001年1月26日、JR東日本新大久保駅で線路に転落した日本人男性を救助するため、自らも犠牲となった赤門会日本語学校の留学生。彼の勇気ある行動は日韓両国へ感動を与え、以後両国における架け橋の象徴となっています。その後、同氏の遺志を受け継いだLSHアジア奨学会～李秀賢（Lee Soo Hyun）顕彰奨学会～が設立され、今でも多くのアジアからの留学生を支えています。なお、当校理事長 新井時賛は同奨学会の副会長を務めています。

#### 【JENESYS2019 対日理解交流促進プログラム】

日本と韓国をはじめとするアジア大洋州の各国・地域との間で、対外発信力を有し、将来を担う人材を招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等への理解を深め、かつ人的交流を通じた一層の相互理解促進に寄与することを目指す事業。



#### <本件に関するお問い合わせ>

赤門会日本語学校 マーケティング部

担当：梅崎

電話：03-3806-6106（平日9:00～17:30）



学校法人 新井学園

**赤門会日本語学校**  
Akamonkai Japanese Language School